



## 教育行政について（平成 15 年 6 月定例会）

子どもたちが知識や技能を修得することも大事ですが、さらに大切な事は、それを実際に身に付け活用する力、自分で考え判断し実現する力を育てることであり、そして最も大切なことは、人が人として生きるための道を知り、「生命の尊さ」を知ることであると思います。

①1年余りが経過した小中学校における新学習指導要領の実施状況をどのように評価されていますか。

②新たに実施されている総合的な学習の時間では、地域力を活用した取り組みも大切な学習の要素であると思います。「地域力が高い地域にはいい子が育つ」と言われていますが、地域と学校現場の連携ある取り組みのために、どのような配慮が取られているのかお伺いいたします。

### 【教育長答弁】

①各学校におきましては、基礎的・基本的な内容の習得を図るため、少人数指導や繰り返し指導など一人一人に応じたきめ細かな指導を展開しており、昨年 11 月に実施いたしました本県独自の学力調査においては、全ての教科で「おおむね良好」と言う結果が出ております。

②今後、子ども達の「生きる力」を育てていくために、学校と地域が連携し、学校のみならず地域にとっても、より意義のある活動となるように取り組んでいくことが大切であると考えております。

各地域において、このような取り組みを円滑に推進するために、「奉仕活動・体験活動支援センター」が、現在、県内の 36 市町村 38 箇所に開設されています。コーディネーターが、地域における活動の情報提供や調整を行っているところです。

県教委としては、これの全市町村への設置や、総合的な学習の時間における有効活用について、学校への指導助言を行ってまいりたいと考えております。